

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 158 人

② 数学 158 人

③ 英語 157 人

5 留意事項

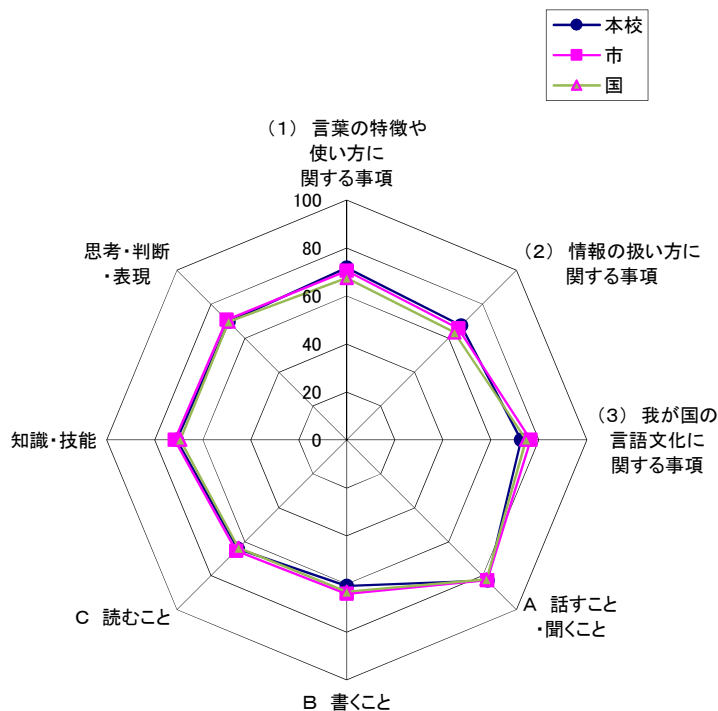
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.8	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	67.4	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.6	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	82.9	82.6	82.2
	B 書くこと	60.8	64.1	63.2
	C 読むこと	64.2	65.3	63.7
観点	知識・技能	70.9	71.7	69.4
	思考・判断・表現	69.7	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

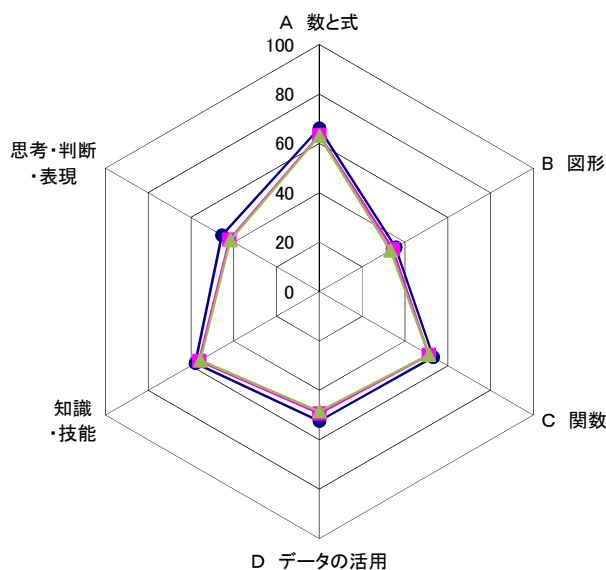
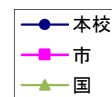
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○正答率が市平均より、1.3ポイント高い。特に、「文脈に即して漢字を正しく書く」問いの正答率が、特に高かった。 ●「文脈に即して漢字を正しく書く」問いの正答率は、市平均より、3.5ポイント高いものの、13.3ポイントの無回答率が見られた。	・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにする。 ・意味の分からない語句を自分で調べる習慣をつけさせる。 ・文脈に即した漢字をきちんと使えるように、普段から漢字の書き取り練習に取り組ませる。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○正答率が市平均より、1.7ポイント高い。特に、「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているか」の問いの正答率が、特に高かった。 ●「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているか」の問いでは、どちらかの条件しか満たしていないで解答が、15.2ポイント見られた。	・事実と考えとの関係を捉えながら、必要な情報とは何かを要約できるようにする。 ・文章の内容について、自分の知識や体験と結び付けて、考えをまとめる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問いでは、8割以上の正答率だった。 ●全体の正答率が、市平均より4.0ポイント下回った。	・古典の様々な作品に触れ、それぞれの作品の構成や表現の効果について、互いに意見を出し合う場面を設ける。 ・現代語とは異なる、歴史的仮名遣いや表現の特徴について理解しながら、古文に慣れさせ、古文に親しむ態度を育む。
A 話すこと・聞くこと	○市平均よりも、0.3ポイント高い。特に、「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」問いでは、9割近くの正答率が見られた。 ●「目的に沿って自分の考えをまとめる」問いでは、正答率が8割を超えたものの、9.5ポイントの無回答率が見られた。	・話し合いの広がりや方向性に注意して、それぞれの場面で適切な発言がされていたかを振り返る学習活動を展開する。 ・共通点と相違点を明らかにし、それぞれの意見から論点を見つける力を身に付けられるように、話し合いの時間を設ける。
B 書くこと	○「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問いでは、7割近くの正答率が見られた。 ●全体の正答率が、市の平均より3.3ポイント下回った。	・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く活動を設ける。 ・説得力のある根拠を、具体的に出し合う活動を行いながら、自分の意見を効果的に伝えるための工夫を考える活動に取り組む。
C 読むこと	○「文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する」問いでは、8割近くの高い正答率が見られた。 ●全体の正答率が、市平均より1.1ポイント下回った。	・場面の展開や表現の工夫に着目しながら、作品を読み進められるようにする。 ・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉えて、自分の考えをまとめられるようにする。

宇都宮市立旭中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	66.1	63.4	63.0
	B 図形	35.7	34.3	33.2
	C 関数	53.2	51.2	51.2
	D データの活用	52.4	49.4	48.5
観点	知識・技能	58.0	56.2	55.7
	思考・判断・表現	45.6	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

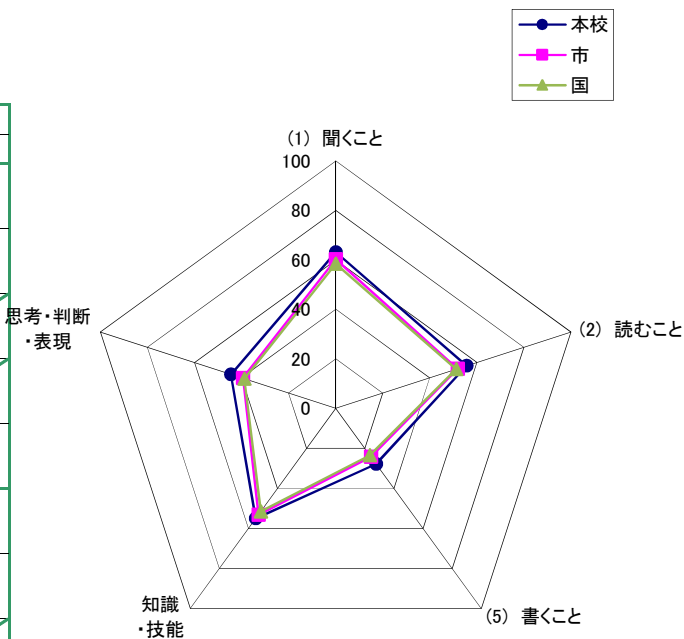
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>○正答率は市平均よりも2.7ポイント高い。特に、数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも9.2ポイント高い。</p> <p>●結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる問題では、無解答率が25.5%であり、学年の4分の1以上が無解答である。</p>	<p>・計算の学習後、補助プリントやAIDドリル、小テストなどを活用し、計算技能の定着を図るようにする。</p> <p>・複雑な計算やミスが起こりやすい計算は授業の中で丁寧に解説していく。</p>
B 図形	<p>○正答率は市平均よりも1.4ポイント高い。特に、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも6.8ポイント高い。</p> <p>●条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも1.0ポイント低い。</p>	<p>・空間図形において、具体物を用いて現象が捉えられるようにする。</p> <p>・証明では、基本的な問題で書き慣れるようにするだけでなく、条件を変えることで、証明がどのように変化するか(あるいは変化しないのか)を考える活動を取り入れる。</p>
C 関数	<p>○正答率は市平均よりも2.0ポイント高い。特に、反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも7.5ポイント高い。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題では、無解答率が市平均よりも1.4ポイント高い。</p>	<p>・2つの数量の関係を見つけることや、その関係を表、式、グラフで表現することができるようにしていく。</p> <p>・具体的な事象に対して、数量の関係がどのようになっていくかを考えたり、その関係の表し方を考え、表、式、グラフで表したりする活動をする。</p>
D データの活用	<p>○正答率は市平均よりも3.0ポイント高い。特に、四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも12.7ポイント高い。</p> <p>●累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市平均よりも6.5ポイント低い。</p>	<p>・学習する語句の意味やいろいろな代表値の求め方を定着させていく。</p> <p>・データをまとめ、複数の結果を比較・検討し、その結果から考えられることを述べていく活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立旭中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	63.1	60.2	58.4
	(2) 読むこと	55.6	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	27.8	24.2	23.4
観点	知識・技能	55.0	53.1	51.5
	思考・判断・表現	44.5	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>○正答率が市平均より2.9ポイント高い。問題別に見ても、すべての問題で正答率が平均より上回っていた。</p> <p>●市平均、全国平均は上回っているものの、「日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」問いでは、正答率が47.1ポイントと低かった。</p>	<p>・今後も、普段から、クラスルームイングリッシュに触れさせるとともに、ALTと英語でコミュニケーションをとる機会や友だちの発表などを意識しながら聞く機会を設定していく。</p> <p>・教科書の本文を読む際に、情報を正確に聞き取る練習やまとまった英文の要点を捉える練習を継続する。</p>
(2) 読むこと	<p>○正答率が市平均より3.8ポイント高い。「事実や考えが書かれた英文を読み、事実と考えを区別して読むことができるか」の問いの正答率が平均より特に高かった。</p> <p>●市平均、全国平均を上回っているものの、「日常的话题について、短い文章の要点を捉える」問いでは、正答率が36.3ポイントと低く、課題が見られた。</p>	<p>・単元の復習の時間を利用して、様々なジャンルの読み物に触れる機会を持ち、要点をまとめられるようにする。</p> <p>・社会問題や説明文などのまとまりのある文章を読んで、自分の意見を表現できる力を育てる。</p>
(3) 書くこと	<p>○正答率が市平均より3.6ポイント高い。特に、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」問いでは、平均を10ポイント近く上回っていた。</p> <p>●その反面、同じ問いに対しての無回答率が31.8%と課題が見られた。</p>	<p>・今後もインプット、アウトプットの活動を継続する。</p> <p>・与えられたテーマに対して自分の意見を書いたり、その理由を書いたりできる機会を設定していく。</p> <p>・無回答を減らすために、知識や体験をもとに、簡単な英語で構成を工夫して、内容を膨らませて書けるように指導する。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定割合は82.4%と、全国、県平均より10ポイント以上高い。夢や目標が明確な生徒が多いことがわかる。今後も自分の夢や目標に向かって努力できるよう、進路指導の充実も図りたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定割合は73.6%と全国、県平均より5ポイント程度低い。友人と意見交換したり、話し合うことを苦手としている生徒が見られる。今後は、話し合う場面を取り入れた授業を展開し、友人と話し合いをする中でお互いの意見大切にし、考える場面を作っていきたい。

○「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか」の肯定割合は74.2%と、全国、県平均より約8ポイント高い。本校は外国にルーツを持つ生徒が多いこともあり、日本語が話せない友人とはICTを活用するなどしながら、積極的にコミュニケーションを図っている。また、外国の文化についても交流できる環境にある。今後も積極的にコミュニケーションを図り、異文化への理解が深まるようにしたい。

○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の肯定割合は88.7%と全国、県平均より30ポイント近く高い。2年前からタブレットを活用したICT授業の展開を全校体制で実践し、ほぼすべての時間にICT機器を活用している結果が反映されている。今後も、職員のICT機器の活用技術の向上を図り、よりよく授業に活用したい。

●「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定割合は74.2%と全国より5ポイント、県平均より7.9ポイント低い。課題の解決に向けて粘り強く考え、主体的に学習に取り組むよう授業改善を図りたい。

宇都宮市立旭中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	自主学習ノート(実施7年目)を使って、生徒自らが内容を考え、毎日1ページは取り組み、提出するよう指導する。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定割合は60.4%で、県平均より1.7ポイント低く、全国平均より5.4ポイント高い。 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して2時間以上と回答した割合は39.6%で県平均より6.2ポイント、全国平均より5.9ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
古文と現代文を比較した問題の正答が市の平均より4ポイント低い。 教科全般から、書いてまとめる問題に国の平均よりもポイントの低いものが見られた。	国語の古文の復習により定着を図る。 書いてまとめる機会を計画的に設け向上を図る。	単元の導入時などに、全学年までの内容を復習する機会を設定し、定着が図れるようにする。 授業のまとめ、単元のまとめの振り返り時に学習内容の記述を行う時間を設定し書く力の向上を図る。